

方針 1：自主講座を安定的・効果的に開催させます。

まちづくり学校の柱となる事業がこの自主講座（まちづくりの学校）です。この自主講座を開催することにより、学校としての存在価値を高め、安定した組織経営を実現させます。そのためにも調整を早期に行い、内外に向かって効果的な開催情報を流し、受講生の獲得を行います。

平成 26 年度の自主講座としては、まちむらカレッジ（まちづくり入門講座）、まちむらコー ディネートカレッジ（まちづくりコーディネーター養成講座）を中心に、まちづくりノ ウハウをレベルアップさせるための個別の講座を効果的に組合せ、「まちづくりの学校」としてニーズにあったプログラムを企画・実施します。

方策 1：講座ごとに学びの達成目標を明確にして、受講する方々のレベルに合ったプログラムを提供します。

方策 2：自主講座の年間カリキュラムを作成し、広く配布します。

方策 3：オープンスクール（無料のガイダンス）を開催して、各講座の講師陣とのトークセッションを行います。

方針 2：ブラニイガタを県内各地で継続開催します。

このブラニイガタは、県内様々なまちを歩いて、その中からたからものといえる「まちの固有性＝まちづくりの種」を発見していく事業ですが、それによってまちそのものを見直すきっかけが生まれ、まちづくりの推進力を引き出します。平成 26 年度はそうしたまちづくりの布石となることを目的として、昨年度から引き続き県内 12ヶ所でまちあるきを実施します。

方策 1：毎月 1～2 回、まだ未開拓のまち（まだまちあるきを行っていないまち）を中心に計 12 回の開催を行います。

方策 2：ブラニイガタで発見したまちのたからものをまちづくりに活かすためのテキストの作成、並びにそのための講座を開催します。

方針 3：オリジナルの販売アイテムを充実させます。

平成 26 年度はブラニイガタをはじめ様々な事業を行うに当たり、情報発信の重要性を再認識いたしました。そこで来年度は各種テキストやまちづくりゲームキットなどを独自に開発して商品化し、販売できる態勢を作りあげます。これによって経営基盤の安定化を図ると共に、アイテムを充実させることでまちづくり学校の活動を多くの方々に知っていただき、全国（世界）各地のまちづくりを支援する姿勢をより明確にしていきます。

方策 1：まちあるきスタイルブックの発刊を全国に向けて発信します。

方策 2：コーディネーターの体験シミュレーションゲームをキット化して販売します。

方策 3：まちづくり計画の進め方とコーディネーターの体験シミュレーションゲームキットは英語化して販売します。